

## 令和5年度シラバス（芸術・書道Ⅰ）

教科（科目）	芸術（書道）	単位数	2単位	学年	1年次 選択必修
使用教科書	東京書籍『書道Ⅰ』				
副教材等	なし				

### 1 学習目標

(1)	書の表現の方式や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。
(2)	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。
(3)	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

### 2 指導の重点

<ul style="list-style-type: none"> <li>基本を理解し、表現技法を身に付ける。</li> <li>主体的に幅広く活動し、表現する楽しさを経験する。</li> <li>用具を大切にし、準備や片付けを手際よく行う。</li> </ul>
--

### 3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。</li> <li>書写能力を向上させるとともに書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し工夫したり作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

### 4 評価基準と評価方法

◎評価は次の観点から行います		
知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
<ul style="list-style-type: none"> <li>用筆・運筆から生み出される書の表現性と表現効果との関わりについて理解している。</li> <li>書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと関わらせて理解している。</li> <li>用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。</li> <li>目的や用途に即した効果的表現の技能を身に付けている。</li> <li>古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字と仮名の調和、全体の構成について構想し工夫している。</li> <li>目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現について構想し、工夫している。</li> <li>古典に即した用筆・運筆、全体の構成について構想し工夫している。</li> <li>意図に基づいた表現について構想し工夫している。</li> <li>作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に書の幅広い表現と鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>
◎評価方法		
以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動への参加状況や態度</li> <li>学習の記録カード</li> <li>作品の記録ファイル</li> </ul> などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>作品構想カード、制作カードの記入状況</li> <li>作品の記録ファイル</li> <li>鑑賞カードの記録状況</li> </ul> などから評価します。	以上の観点を踏まえ、 <ul style="list-style-type: none"> <li>学習活動への参加状況</li> <li>学習カードの記入状況</li> <li>作品の記録ファイル</li> </ul> などから評価します。

## 5 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	書写から書道へ	4 「A 表現」 「B 鑑賞」	<ul style="list-style-type: none"> <li>書写から書道へ、関連を理解する。</li> <li>基本的な姿勢、執筆法を身につける。</li> <li>書体の変遷を理解する。</li> </ul>	abc	学習活動への参加状況 学習カード 作品の記録ファイル 鑑賞カード
5	漢字の書 ・楷書	14 「B 鑑賞」 「A 表現」	<ul style="list-style-type: none"> <li>臨書の意味や方法を理解する。</li> <li>楷書の古典を鑑賞し臨書する。 「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」 「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」 「牛橛造像記」「鄭義下碑」</li> </ul>		
6					
7	・篆書	16 「B 鑑賞」 「A 表現」	<ul style="list-style-type: none"> <li>篆書の特徴を理解し、鑑賞し臨書する。 「泰山刻石」</li> <li>篆書で姓名印を制作する。</li> <li>作品に押印し、表具する。</li> </ul>		
9					
10					
	・行書	10 「B 鑑賞」 「A 表現」	<ul style="list-style-type: none"> <li>行書の特徴を理解し、鑑賞し臨書する。 「集王聖教序」「蘭亭序」 「争坐位文稿」「風信帖」</li> </ul>		
11	・隸書	4 「B 鑑賞」 「A 表現」	<ul style="list-style-type: none"> <li>隸書の特徴を理解し、鑑賞し臨書する。 「曹全碑」</li> </ul>		
	・創作	4 「A 表現」 「B 鑑賞」	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書で学んだ古典の特徴や技法を生かして、創作し、互いに鑑賞する。</li> </ul>		
12	仮名の書	10 「B 鑑賞」 「A 表現」	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の成立を理解する。</li> <li>仮名の特徴を学ぶ。 (基本用筆・連綿・変体仮名)</li> <li>仮名の古典を鑑賞し臨書する。 「蓬萊切」「高野切第三種」</li> <li>仮名作品を制作し、互いに鑑賞する。</li> </ul>		
1	漢字仮名 交じりの書	8 「A 表現」 「B 鑑賞」	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典の特徴を活かしたり、意図に基づいた表現の工夫をして、漢字仮名交じりの書を創作する。</li> <li>生活の中での様々な書式などを理解し、表現する。</li> </ul>		
2					
		計 70 時間 (50 分授業)			

## 6 課題・提出物等

- ・定期テストは実施しません。
- ・毎時間の課題作品の提出がありますので、積極的に参加する姿勢を求めます。
- ・用具の準備・片付け等も含めて学習活動になりますので、遅刻厳禁です。

## 7 担当者からの一言

小中学校までの国語科「書写」から発展し、高校では芸術科「書道」が始まります。書道の学習においては、よく見ること・考えることが大切です。技法の習得には自分の解決すべき課題を見極めながら練習を重ねます。書を通した自己表現を目指します。

(担当：金井美幸)